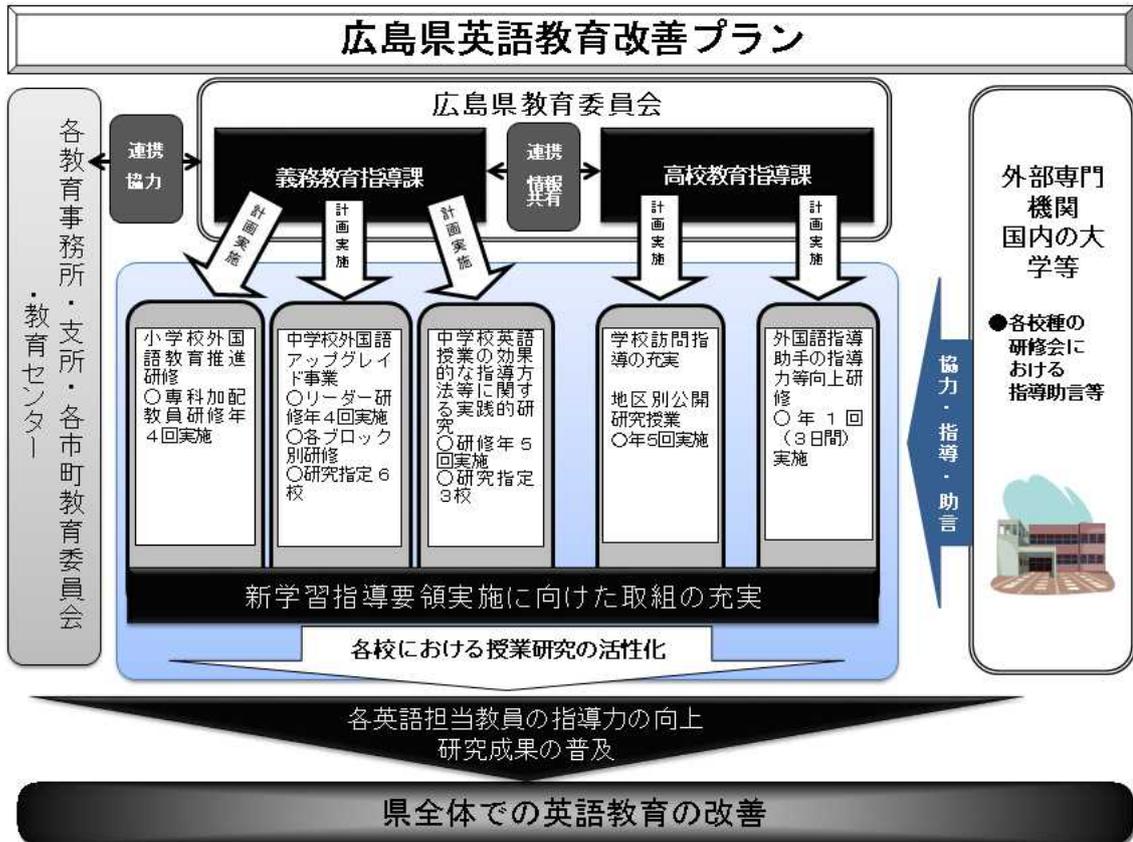


広島県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要

下の図に示すとおり、各校種における研修会において、その趣旨を踏まえ、研修を深めていく。また、事務局等校種間の連携を通し、各研修内容の充実を図る。



令和元年度の成果と課題を踏まえ、以下のように、令和2年度の研修体制を整備し、その成果を普及する。

【各校種における研修体制について】

1 小学校

新学習指導要領の円滑な実施と充実を通し、児童の英語力向上を図るため、以下のとおり研修体制を充実させる。

(1) 小学校外国語教育専科教員を活用した指導方法等の研究の推進

県内（政令市を除く）に7名の小学校外国語教育専科教員（以下、小学校専科教員とする。）を小学校英語専科指導加配として配置する。小学校専科教員は、県主催の研修（年4回）に参加し、小学校外国語教育に係る専門性の向上を図る。また、国の最新の動向等を共有し、新学習指導要領を踏まえた小学校外国語教育の指導方法、指導計画の在り方及び学習評価等について研究するとともに、校内及び校外への授業公開、授業実践映像の発信及び学習指導案・教材等の作成を通して、研究成果の普及を図る。

(2) 各市町等における研修への支援

市町等において小学校外国語教育に係る研修を実施する場合、県教育委員会は市町教育委員会からの要請に応じて指導主事を派遣し、指導・助言を行う。

(3) 外部専門機関等との連携

(1)の県主催の研修に外部専門機関等から講師を招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。

2 中学校

小学校外国語の教科化を踏まえた中学校の効果的な指導方法等の研究を進めるとともに、校

種間の円滑な接続に向けた指導計画を作成、実践し、その成果を検証し、普及する。

(1) 新学習指導要領を踏まえた授業改善の推進及び普及

県内（政令市を除く）の中学校6校を研究指定校に指定し、研究担当者が中学校外国語科における小学校外国語の教科化を踏まえた指導方法等、校種間の円滑な接続に係る実践的な研究を行い、その成果を検証し、普及する。普及については、中学校英語担当教員を対象とした年2回のブロック別研修（県内6地区）において、研究担当者の授業による授業研究を含む研修を実施する。

(2) 5ラウンドシステムを取り入れた英語授業の在り方に関する実践的研究

県内（政令市を除く）の中学校3校を研究推進校に指定し、5ラウンドシステムを取り入れた中学校英語授業の在り方に関する実践的研究を行う。研究推進校の英語担当者等をメンバーとする研究推進委員会を年5回開催し、授業研究を通じた指導方法等に関する研究や教材開発等を行う。

(3) 外部専門機関等との連携

(1)の県主催の研修に外部専門機関等から講師を招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。

3 高等学校

高等学校については、次の(1)～(4)の取組を通して、各学校における「主体的な学び」に向けた英語教育の改善をさらに推進していく。

(1) 「話すこと〔やり取り〕」に係る取組の推進

各学校が、英語教育において「主体的な学び」を推進するに当たり、今後、領域別の目標の4技能5領域に対応した指導、とりわけ「話すこと〔やり取り〕」の指導の充実を図る。具体的には、領域別の目標の4技能5領域に対応したCAN-DOリストへの移行を円滑に行えるように、学習指導要領改訂の趣旨等の周知を図るとともに、必修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」の「話すこと」に係るパフォーマンステストの実施状況の改善を図るよう指導を行っていく。そのため、研修等において、パフォーマンステストの実施方法やテスト内容及び評価方法について先進的な取組を行っている学校からの実践事例発表や、「話すこと〔やり取り〕」に係る評価方法等についての協議や演習を実施する。

(2) 学校訪問指導の充実

平成27年度から令和元年度までの5年間実施した研修の内容を基に、個々の授業実践とともに教科内で組織的に「主体的な学び」に向けた授業改善を進めることができるように、学校訪問指導を充実させる。令和2年度は、年2回（第1回は現状把握、第2回は検証）高校教育指導課の指導主事が、各学校における研究授業を通して、「話すこと〔やり取り〕」に係る組織的な取組の充実に向け、指導することを目的に各担当校へ訪問する。教科内で組織的な取組として成果が上がっているかを検証できるようにするため、英語教育実施状況調査の指標も踏まえ、毎年実施している「広島県高等学校生徒質問紙・学校質問紙調査」を通して、各学校の授業改善の進捗状況の把握に努める。

(3) 英語教育推進リーダー等の活用

県内の各高等学校で実施される公開研究授業等において指導助言に当たるとともに、広島県高等学校教育研究会英語部会主催のスピーチコンテスト等の審査員として審査に当たる。また、初任者研修等において示範授業を実施したり、広島県高等学校教育研究会英語部会において積極的に授業を公開したりして、教員の育成に寄与する。さらに、地域で開催される小学校及び中学校での公開研究授業への積極的な参加を通じて、校種間の連携を図る。

(4) 外部専門機関との連携

外国語指導助手指導力等向上研修や広島県高等学校教育研究会英語部会等、外部専門機関と連携し、実施した研究授業が主体的な学びを促す教育活動になっているかどうかについて、教員による発問の工夫やフィードバックの方法等の観点から分析する。そして、その分析結果を質の高い言語活動に改善するための基礎資料とするとともに、外国語指導助手指導力等向上研修や広島県高等学校教育研究会英語部会等を通して分析結果を還元する。

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

○英語教育の状況を踏まえた目標管理

英語教育の現状と目標値の設定、目標達成のための手立てについては、次のとおりとする。

1 英語教育の現状と目標の設定

【小学校】

① 小学校教員に対する研修実施回数

年度	小学校教員に対する研修実施回数
平成30年度	70回
令和元年度	70回
令和2年度	4回

② 研修受講者数

年度	研修受講者数
平成30年度	1970名
令和元年度	2000名
令和2年度	48名

【中学校】

① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)

年度	求められる英語力を有する英語担当教員の割合
平成30年度	36.9%
令和元年度	45.3%
令和2年度	50%達成を目指す

② 求められる英語力を有する生徒の割合(%)

年度	英語力を有する生徒の割合
平成30年度	43.9%
令和元年度	44.1%
令和2年度	50%達成を目指す

③ 学習到達目標の整備状況(%)

年度	CAN-DO リスト形式 設定	CAN-DO リスト形式 公表	CAN-DO リスト形式 達成状況の把握
平成30年度	100%	98.8%	100%
令和元年度	100%	99.4%	100%
令和2年度	100%達成を目指す	100%達成を目指す	100%達成を目指す

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)

年度	生徒の英語による言語活動時間の占める割合
平成30年度	80.7%
令和元年度	84.0%
令和2年度	85%達成を目指す

⑤ パフォーマンステストの実施状況 スピーキングテスト及びライティングテスト（回）

年度	スピーキングテスト	ライティングテスト
平成 30 年度	3.27	2.64
令和元年度	3.51	3.24
令和 2 年度	3.7 回達成を目指す	3.3 回達成を目指す

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況（％）

年度	英語担当教員の英語使用状況
平成 30 年度	79.9%
令和元年度	80.3%
令和 2 年度	82.5%達成を目指す

【高等学校】

① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に対する割合

年度	求められる英語力を有する担当教員
平成 29 年度調査	81.2%
平成 30 年度調査	80.3%
令和元年度調査	82.9%
令和 2 年度調査	85%達成を目指す

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

年度	英語力を有する全生徒の割合
平成 29 年度調査	41.0%
平成 30 年度調査	41.3%
令和元年度調査	41.4%
令和 2 年度調査	45%達成を目指す

③ CAN-DO リスト形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

年度	CAN-DO リスト形式 設定	CAN-DO リスト形式 公表	CAN-DO リスト形式 達成の把握
平成 29 年度調査	100%	100%	100%
平成 30 年度調査	100%	99.0%	100%
令和元年度調査	100%	100%	100%
令和 2 年度調査	100%達成を目指す	100%達成を目指す	100%達成を目指す

④ 授業における、生徒の英語における言語活動時間の占める割合

年度	生徒の英語における言語活動時間の占める割合
平成 29 年度調査	41.7%
平成 30 年度調査	48.4%
令和元年度調査	53.1%
令和 2 年度調査	55%達成を目指す

⑤ スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
スピーキング テスト	コミュニケーション英語Ⅰ	1.21 回	2.59 回	2.28 回	3.0 回達成を目指す
	コミュニケーション英語Ⅱ	1.03 回	1.01 回	1.61 回	2.0 回達成を目指す
	コミュニケーション英語Ⅲ	0.41 回	0.65 回	0.75 回	1.0 回達成を目指す
	英語表現Ⅰ	1.03 回	0.95 回	0.92 回	1.0 回達成を目指す
	英語表現Ⅱ	0.49 回	0.94 回	0.93 回	1.0 回達成を目指す
ライティング テスト	コミュニケーション英語Ⅰ	2.31 回	3.44 回	3.85 回	4.0 回達成を目指す
	コミュニケーション英語Ⅱ	2.23 回	2.81 回	3.83 回	4.0 回達成を目指す
	コミュニケーション英語Ⅲ	1.24 回	2.39 回	2.89 回	3.0 回達成を目指す
	英語表現Ⅰ	2.23 回	3.11 回	3.63 回	4.0 回達成を目指す
	英語表現Ⅱ	2.48 回	4.55 回	5.54 回	5.0 回達成を目指す

⑥ 英語担当教員の英語使用状況

年度	英語担当教員の英語使用状況
平成 29 年度調査	39%
平成 30 年度調査	41.7%
令和元年度調査	43.9%
令和 2 年度調査	50%達成を目指す

2 目標達成の手立て

以下に、前頁で校種ごとに示した目標達成の手立てを示す。

また、小・中・高等学校接続の一貫性を意識した連携を行うことで、本県の小・中・高の系統性のある英語教育の推進を目指す。

【小学校】

① 小学校外国語教育専科教員を活用した指導方法等の研究の推進

小学校外国語教育の充実に向けた県主催の研修を年 4 回実施し、小学校専科教員を参加させるとともに、県全体から参加者を受け入れる。研修においては、国の最新の動向等を共有し、新学習指導要領を踏まえた小学校外国語教育の指導方法、指導計画の在り方及び学習評価等について研究するとともに、授業実践映像や好事例の集積及び学習指導案・教材等の作成を通して、研究成果の普及を図る。

② 小学校教員の授業改善に資する指導資料等の作成及び発信

前年度までに実施した県の事業や今年度の研究の成果を基に、モデルとなる指導計画や学習評価の事例等をまとめた指導資料を作成し、県のホームページ等から発信する。

③ 外部専門機関等との連携

外部専門機関等から講師を招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。

【中学校】

① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合（％）

CEFR B2 レベル以上の取得を奨励するため、引き続き外部検定試験受験を促す。

② 求められる英語力を有する生徒の割合（％）

・ 研修による授業改善

年間を通じた英語担当教員対象の研修を通し、英語担当教員の指導力向上を図るとともに、授業改善による生徒の英語力向上を図る。

・ CAN-DO リスト形式による学習到達目標に基づいた授業設計及び生徒の英語力の検証の事例紹介

学習到達目標に基づいた授業設計を行うように指導するとともに、授業において生徒の英語力を把握し、求められる英語力が生徒に身に付いているかを検証する方法について、研修等において引き続き好事例を情報提供する。

③ 学習到達目標の整備状況の割合（％）

・CAN-DO リスト形式による学習到達目標の公表

学習到達目標の公表状況は、令和元年度は 99.4%であった。引き続き各中学校等（政令市を除く）に各校作成の学習到達目標をHPに掲載する等、公表するよう指導主事会等を通じて呼びかける。

・CAN-DO リスト形式による学習到達目標の達成状況の把握

令和元年度において、CAN-DO リストの設定状況は 100%、達成状況の把握は 100%であった。今後、研修等において、学習到達目標を踏まえた授業づくりの重要性等について、理解を深めていくとともに、各指導主事等による指導助言へ活用させる。

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合（％）

生徒の授業における英語による言語活動時間の割合について、令和元年度調査によると 84.0%であった。前年度と比較すると、3.3%上昇しており、経年変化からも、生徒の授業における英語による言語活動の割合は増加傾向であることがわかる。このことにより、授業者が生徒に英語を使わせるような学習場面の設定を行うなど、言語活動の充実を目指した授業改善が着実に進んでいると考えられる。

今後も、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じ、生徒が英語で自分の思いや考えを伝えることができるよう、さらなる言語活動の充実を目指した授業改善に向け、研修内容の充実を図る。その際、英語教育実施状況調査における本県の結果を示すとともに、担当教員が新学習指導要領「外国語」の趣旨について理解を深めるよう引き続き指導を行う。

⑤ スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

・パフォーマンステストとその評価基準を設定して行った学習指導案の好事例の収集と普及

研究指定校等による CAN-DO リストに基づいた学習指導案の好事例を収集する。また、研修等において、単元末に設定したパフォーマンステスト及びその評価基準を含んだ学習指導案を検討させることにより、指導と評価の一体化を図る。さらに、ブロック別研修等において、好事例の普及を県全体へ図る。

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況（％）

英語担当教員の英語使用状況は、令和元年度調査によると 80.3%であった。前年度と比較すると、0.4%上昇しており、経年変化からも、英語担当教員の英語使用状況は増加傾向であることがわかる。このことにより、授業者自身が主体的に英語使用による授業改善を進めていると考えられる。引き続き、小学校及び高等学校との接続の観点の踏まえ、生徒の実態に応じて生徒が理解する英語で授業を行うよう授業改善を促す。

⑦ 英語担当教員に対する研修実施について

県内（政令市を除く）の中学校 6 校を研究指定校に指定し、新学習指導要領を踏まえた指導方法等、校種間の円滑な接続に係る実践的な研究を行い、その成果を検証し、普及する。

中学校英語担当教員の専門性と指導力を向上させるため、県教育委員会が主催する研修（年 4 回）を実施する。その研修を踏まえた公開授業を年 2 回のブロック別研修（※）において研究担当者が提案し、普及を図る。

（※）ブロック別研修：平成 30～令和 2 年度に、県内（政令市を除く）の全ての中学校等英語担当教員を対象に県内を 6 地区に分け、授業研究を中心とした研修を実施する。研修を年 2 回実施し、3 年間で県内中学校英語担当教員（政令市を除く）全員が受講するよう実施する。

研修等の1年間の流れ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リーダー研修	第1回		第2回				第3回		第4回			
							第1回ブロック別研修			第2回ブロック別研修		
授業研究	学習指導案等の作成及び効果的な実践の整理、発信											
		授業研究										
							研修報告書作成3月提出					

【高等学校】

① 求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に対する割合

管理職を通じて英語検定準1級（CEFR B2）程度以上の資格取得を促すよう働きかける。また、各研修を通して、受検を促す。

② 求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合

・学校訪問指導、研究授業及び研修を通じた授業改善

平成30年度末で、県内のほぼ全ての英語担当教員が英語指導力向上研修を受講したことになる。また、令和元年に実施した教科リーダー研修を踏まえて、令和2年度以降、各学校での組織的な授業改善が進められる。今後は、学校訪問指導や研究授業等を通して英語担当教員の指導力の強化を図っていく。

・CAN-DO リスト形式で設定した学習到達目標に基づいた授業設計及び生徒の英語力の検証の事例紹介

研修等において、CAN-DO リストに基づいた授業設計、授業における生徒の英語力の把握・検証について、好事例を情報提供する。

・CAN-DO リスト形式で技能別に設定した学習到達目標の検証方法の研修

公開研究授業や研修等を通して、英語教育推進リーダーが行った授業のDVDと評価基準を活用する。

③ CAN-DO リスト形式で技能別に設定した学習到達目標の整備状況

全ての県立高等学校において、CAN-DO リストの設定、公表及び達成状況の把握について、100%達成している。引き続き各校に実施を求めていく。

④ 授業における、生徒の英語による言語活動時間の占める割合

これまでの研修及び研究授業において、生徒が英語を用いる言語活動が中心となる授業づくりの指導方法や実践事例などを提示したことにより、そのような授業づくりへの理解は広がったと考える。今後は、引き続き、英語教育推進リーダーや大学教授等と連携し、コミュニケーションが行われる場面や状況、目的に必然性を持たせた言語活動の設定へとさらに授業改善の質が組織的に高まるよう研究授業や研修等の内容の充実を図る。また、文部科学省の英語教育実施状況調査における本県の結果及び新学習指導要領の改訂の趣旨等も示しながら、英語担当教員が現行及び新学習指導要領「外国語」の趣旨について理解を深めるよう引き続き、指導を徹底していく。

⑤ スピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストの実施状況

・パフォーマンステストとその評価基準の事例収集，好事例の情報提供及び取組の促進

科目「コミュニケーション英語Ⅰ」及び「英語表現Ⅰ」において，複数の技能を統合的に活用する力を評価する，スピーキングテスト及びライティングテストをそれぞれ年3回以上実施するよう求めるとともに，問題及びその評価基準等を提出させ，好事例を研修において情報提供を行う。また，文部科学省の英語教育実施状況調査の結果を各県立高等学校に周知することにより，パフォーマンステストの実施状況の改善に向けた取組を行うよう促す。

・パフォーマンス課題とその評価基準を設定して行った学習指導案の好事例の収集と情報提供

CAN-DO リストに基づいて行った単元の学習指導案とパフォーマンス課題の好事例について，収集と情報提供を行う。

⑥ 英語担当教員の英語使用状況

研究授業や研修等を通して，英語担当教員に授業改善を促すとともに，改善するために必要な英語力を身に付けさせる。また，文部科学省の英語教育実施状況調査の結果を各学校の英語担当教員等に伝えることで，英語担当教員の英語使用の状況の改善に向けた取組を行うよう促す。さらに，管理職を通じて，授業評価シート等に英語担当教員の英語使用の状況の評価する項目を盛り込むなどの工夫を促す。

⑦ 研修の実施回数，研修受講者の人数及び全担当教員に占める割合

学校訪問指導や公開研究授業に加え，外国語指導助配置校の43人を対象とした年2回の研修を実施することとしている。

3 検証の方法

【小学校】

文部科学省が実施する英語教育実施状況調査への回答状況や，各種研修における参加者のフィードバック，小学校専科教員の報告書等を基に検証を行う。

【中学校】

文部科学省が実施する英語教育実施状況調査における目標管理書の指標について検証を行うとともに，中学校外国語アップグレード事業，中学校英語授業の効果的な指導方法等に関する実践的研究に係る研修における受講者に対するアンケートや自由記述欄への記述，受講者が作成した研修報告書を基に検証を行う。

【高等学校】

当該事業の目標管理書に示されている指標について検証を行うとともに研修等における受講者に対するアンケートや自由記述欄への記述等に加え，学校訪問指導時でのヒアリング，研究授業及び広島県高等学校生徒質問紙・学校質問紙調査を基に研修等の効果の検証を行う。

(3) 研修の体系と内容の具体

○研修の体系と内容の具体

研修の体系と内容の具体については、次のとおりとする。

【小学校】

令和2年度

(1) 研修名	令和2年度小学校外国語教育推進研修
(2) 対象者	小学校外国語教育専科教員（7名）
(3) 研修目的	新学習指導要領に新しく位置づけられた小学校外国語教育の円滑な実施と充実に向け、小学校外国語教育の課題に対応した授業改善に向けた実践的な研修を実施し、児童の英語力の向上を図る。
(4) 研修内容	国の最新の動向等を共有し、新学習指導要領を踏まえた小学校外国語教育の指導方法、指導計画の在り方及び学習評価等について研究するとともに、授業公開、授業実践映像や好事例の集積及び学習指導案・教材等の作成を通して、研究成果の普及を図る。 ※年4回実施。
(5) 受講予定者数	48名
(6) 研修の評価方法	○小学校外国語教育専科教員の報告書 ○英語教育実施状況調査への回答状況
(7) 外部専門機関等との関わり	外部専門機関等から講師を招き、研究の進捗等について指導・助言を受ける。

【中学校】

令和2年度

(1) 研修名	令和2年度中学校外国語アップグレードリーダー研修
(2) 対象者	県の研究指定校の研究担当者（6名）
(3) 研修目的	新学習指導要領を踏まえた校種間の円滑な接続に向けた指導方法等の研究を推進し、その成果を県内の中学校等（中学校及び義務教育学校後期課程）に普及し、児童生徒の英語力の向上を図る。
(4) 研修内容	・新学習指導要領を踏まえた指導方法等、校種間の円滑な接続に係る実践的な研究を行い、その成果を検証し、普及する。 ※年4回実施 ・研究担当者の授業研究を通して、英語教員は指導方法等を工夫・改善する。
(5) 受講予定者数	24名
(6) 研修の評価方法	○研究指定校の実施報告書 ○授業研究の学習指導案（2単元分） ○受講者の研修に関するアンケート ○英語教育実施状況調査
(7) 外部専門機関等との関わり	大学等に協力校の研究授業に係る指導・助言の講師として派遣を依頼する。

令和2年度

(1) 研修名	令和2年度中学校外国語アップグレード事業に係るブロック別研修
(2) 対象者	県内（政令市を除く）の公立中学校英語担当教員
(3) 研修目的	研究担当者の授業研究を通して、新学習指導要領を踏まえた指導方法、校種間の円滑な接続の在り方等を県内に普及する。
(4) 研修内容	研究担当者の公開授業を中心とした授業力向上のための研修を行う。 ※年2回実施
(5) 受講予定者数	296名
(6) 研修の評価方法	○受講者の研修報告書

	<p>○研修で学んだことを取り入れた学習指導案（1単元分）</p> <p>○受講者の研修に関するアンケート</p> <p>○英語教育実施状況調査</p>
令和2年度	
(1) 研修名	中学校英語授業の効果的な指導方法等に関する研究推進委員会
(2) 対象者	研究推進校の英語担当者、英語教育に関する有識者、県教育委員会事務局職員、研究推進校を所管する市町教育委員会職員
(3) 研修目的	生徒の外国人とコミュニケーションを図ることへの興味・関心を高めるとともに、英語力の向上を目指し、5ラウンドシステムを取り入れた中学校英語授業の在り方に関する実践的研究を行う。
(4) 研修内容	講師を招聘した研修、文献等による理論研究、授業研究を通じた効果的な指導方法等に関する研究、教材開発等を行う。 ※年5回実施
(5) 受講予定者数	未定
(6) 研修の評価方法	<p>○研究推進校の実施報告書</p> <p>○受講者の研修に関するアンケート</p> <p>○英語教育実施状況調査</p> <p>○生徒対象の質問紙調査</p>
【高等学校】	
令和2年度（2020年度）	
(1) 研修名	外国語指導助手受入担当者会議及び研修会
(2) 対象者	外国語指導助手配置校の英語担当教員
(3) 研修目的	外国語指導助手の効果的な活用の方法等について研究協議を行うとともに、広島県の外国語教育に係る現状と課題を把握し、外国語教育の充実を図る。
(4) 研修内容	広島県の外国語教育に係る現状と課題、パフォーマンステストを基にした実践交流 ※英語担当教員1回
(5) 受講予定者数	43名
(6) 研修の評価方法	受講者の研修に関するアンケート
令和2年度（2020年度）	
(1) 研修名	外国語指導助手指導力等向上研修
(2) 対象者	外国語指導助手及び英語担当教員
(3) 研修目的	「語学指導等を行う外国青年招致事業」による招致外国青年のうち、中学校、高等学校及び特別支援学校において語学指導に従事する者（以下「外国語指導助手」という。）及び外国語担当教員に対して、効果的な語学指導を行うために必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、外国語教育の充実を図る。
(4) 研修内容	外国語教育に係る諸問題についての講義・演習・協議、模擬授業 ※英語担当教員1回
(5) 受講予定者数	外国語指導助手200名と英語担当教員50名
(6) 研修の評価方法	受講者の研修に関するアンケート
(7) 外部専門機関との関わり	広島大学を中心として、大学等に講師の派遣を依頼したり、研修内容や研修効果の検証評価について指導・助言を求めたりする。

令和2年度（2020年度）	
（1）研修名	広島県高等学校教育研究会英語部会総会及び地区別公開研究授業
（2）対象者	英語担当教員
（3）研修内容	公開研究授業，講義，演習・協議
（4）受講予定者数	希望者
（5）研修の評価方法	受講者の研修に関するアンケート
（6）外部専門機関との関わり	広島大学を中心として，大学等に講師の派遣を依頼したり，研修内容について指導・助言を求めたりする。

(4) 年間事業計画

【小学校】

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○小学校外国語教育推進研修に係る通知	
5月	○第1回小学校外国語教育推進研修	信州大学
6月		
7月	○第2回小学校外国語教育推進研修	
8月		
9月		
10月		
11月	○第3回小学校外国語教育推進研修	
12月	○英語教育実施状況調査	
1月	○第4回小学校外国語教育推進研修	
2月		
3月	○小学校外国語教育推進研修に係る報告書等の取りまとめ、 成果検証等	
【その他の取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・市町等における研修等への支援を年間を通じて行う。 ・県ホームページ等を活用して研究成果を発信・普及する。 		

【中学校】

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○中学校外国語アップグレードリーダー研修に係る通知 ○第1回アップグレードリーダー研修開催 ○中学校外国語アップグレード事業のブロック別研修に係る通知	
5月	○中学校外国語ブロック別研修受講者決定 ○第1回研究推進委員会	
6月	○第2回アップグレードリーダー研修	信州大学
7月	○第2回研究推進委員会	
8月		
9月	○第3回研究推進委員会	
10月	○第3回アップグレードリーダー研修	信州大学
11月	○第4回研究推進委員会	
12月	○第4回アップグレードリーダー研修 ○英語教育実施状況調査	
1月		
2月	○第5回研究推進委員会	
3月	○中学校外国語アップグレード事業，中学校英語授業の効果的な指導方法等に関する実践的研究に係る実施報告書等の取りまとめ，成果検証等	
【その他の取組】 ・県ホームページ等を活用した研究指定校による実践例等研究成果の発信及び普及		

【高等学校】年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○CAN-DO リストに係る通知 ○科目「コミュニケーション英語Ⅰ」及び「英語表現Ⅰ」の 考査問題及び解答例及び採点基準の提出に係る通知	
5月	学校訪問指導	
6月		
7月	○外国語指導助手受入担当者会議及び研修会	
8月	○広島県高等学校教育研究会英語部会総会	広島大学等
9月		
10月	学校訪問指導	地区別公開研究授業
11月	○広島県高等学校生徒質問紙・学校質問紙調査	
12月	○英語教育実施状況調査	
1月	○外国語指導助手の指導力等向上研修（3日間）	広島大学等
2月		
3月	○令和3年度入学生用 CAN-DO リスト（3年間あるいは4年間 分）提出 ○平成29年度，平成30年度，令和元年度及び令和2年度入 学生用 CAN-DO リスト（3年間あるいは4年間分）修正分提出 ○科目「コミュニケーション英語Ⅰ」及び「英語表現Ⅰ」の 考査問題及び解答例及び採点基準の提出	
【その他の取組】		

都道府県等 教育委員会名	広島県
-----------------	-----

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022			
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値		
高等学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85	80.3	85	82.9	85		85		85			
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	45	41.3	45	41.4	45		45		45			
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100		100		100		
			公表(%)	100	99	100	100	100		100		100		
			達成状況の把握(%)	100	100	100	100	100		100		100		
				100	100	100	100	100		100		100		
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	50	48.4	50	53.1	55		55		55			
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2	2.59	2.5	2.28	3		3		3	
				コミュニケーション英語Ⅱ	1.5	1.01	2.5	1.61	2		2.5		2.5	
				コミュニケーション英語Ⅲ	1	0.65	2	0.75	1		2		2	
				英語表現Ⅰ	2	0.95	2.5	0.92	1		2		2.5	
				英語表現Ⅱ	1.5	0.94	2.5	0.93	1		2		2.5	
					2.5	3.44	3	3.85	4		4		4	
			○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2.5	3.44	3	3.85	4		4		4	
				コミュニケーション英語Ⅱ	2.5	2.81	3	3.83	4		4		4	
				コミュニケーション英語Ⅲ	1.5	2.39	3	2.89	3		3		3	
				英語表現Ⅰ	2.5	3.11	5	3.63	4		4		5	
				英語表現Ⅱ	3.5	4.55	5	5.54	5		5		5	
	⑥	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ											
英語コミュニケーションⅡ														
英語コミュニケーションⅢ														
論理・表現Ⅰ														
論理・表現Ⅱ														
論理・表現Ⅲ														
○ライティングテスト(回)			英語コミュニケーションⅠ											
			英語コミュニケーションⅡ											
			英語コミュニケーションⅢ											
			論理・表現Ⅰ											
			論理・表現Ⅱ											
			論理・表現Ⅲ											
⑦	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	41.7	50	43.9	45		50		50				
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	4	5	4	4	2		2		2				
	研修受講者数	160	386	100	102	50		50		50				

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	36.9	50	45.3	50		50		50		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50	43.9	50	44.1	50		50		50		
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100	100	100		100		100	
			公表(%)	100	98.8	100	99.4	100		100		100	
			達成状況の把握(%)	100	100	100	100	100		100		100	
				100	100	100	100	100		100		100	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80	80.7	82.5	84	85		87.5		90		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3.5	3.3	3.5	3.5	3.7		3.9		4	
ライティングテスト(回)			3	2.6	3	3.2	3.3		3.4		3.5		
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	79.9	82.5	80.3	82.5		85		87.5			
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	16	16	16	16	16		16		16			
	研修受講者数	194	196	322	330	320							

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	①	学習到達目標の整備状況	設定(%)					50		75		100
			公表(%)					50		75		100
			達成状況の把握(%)					50		75		100
②	小学校教員に対する研修実施回数	70	70	70	72	4						
③	研修受講者数	2000	1970	2000	2000(暫定値)	48						

独自	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値								

※第3期教育振興基本計画に基づき、2022年度までの目標管理としている。なお、小学校専科指導に係る新規採用者に占める一定の英語力を有する者の割合については、平成30年12月27日付け「質の高い小学校英語教育を推進するための小学校英語専科指導に係る加配定数の取扱について」を受けて、2025年度まで記入欄を設けている。